TOP MUSEUM

**Press Release Vol.2**　2025年1月9日

**恵比寿映像祭2025の見どころから参加アーティスト第2弾および上映プログラムなどの追加情報公開！ 第2回コミッション・プロジェクトのファイナリスト4名による新作の概要も発表。**

総合開館30周年記念

# 恵比寿映像祭2025 総合テーマについて

## 「Docs ―これはイメージです―」

## Docs: Images and Records

東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団　　東京都写真美術館／日本経済新聞社は2025年1月31日（金）～2月16日（日）の15日間にわたり、東京都写真美術館をメイン会場に、恵比寿ガーデンプレイス各所などで「総合開館30周年記念 恵比寿映像祭2025　Docs ―これはイメージです―」を開催します。この度の恵比寿映像祭では、メディアの変容に着目し、幅広い作品群をイメージと言葉からひも解くことで、「ドキュメント／ドキュメンタリー」の再考を試みます。

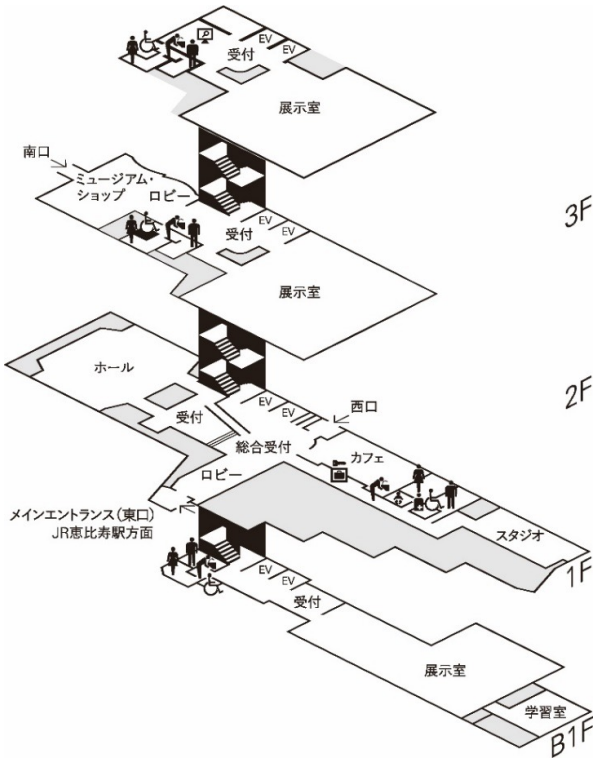
ドキュメント（document）は書類や文書を意味し、事実に基づく情報の記録（言葉はもとより写真・映像などのイメージを含む）を指します。そして、これを形容詞化したドキュメンタリー（documentary）という言葉はドキュメント的という形容詞の語義だけでなく、記録映画という名詞の意味も含まれます。

実写映画の起点がリュミエール兄弟による、工場から出てくる人々を記録した《工場の出口》（1895年）であることはよく知られています。公開時、人々は日常で目にする光景が、実際の出来事のように、眼前に記録・再生されることに驚愕しました。この発明から130年を経た現在、誰もが写真や映像で生活を記録し、共有することが当たり前になっています。また、写真は画像へ、映像は動画へ、いわば制御可能なデジタルデータへと拡張し、事実とそれを表すイメージとの関係はより複雑で曖昧なものになっているのではないでしょうか。

「総合開館30周年記念 恵比寿映像祭2025」では、東京都写真美術館の館内全フロアにおいて、国内外で活躍するアーティストによる映像、写真、資料などのパフォーマンスや身体性と関連する作品群、さらに第2回目となる「コミッション・プロジェクト」のファイナリストによる新作、東京都コレクションの展示および上映、パフォーマンス、ライヴ、トーク、ワークショップなどのプログラムを通して、19世紀から現代にいたるさまざまな表現を紹介し、時間を記録することに焦点をあてながらアーカイヴを掘り下げ、言葉とイメージの問題をひも解きます。

また、手話通訳付きトークや鑑賞サポートをより充実させ、多様な背景を持つ来場者一人ひとりが文化や表現に出会う環境をつくります。そして、恵比寿ガーデンプレイス各所で展開するオフサイト展示では、テーマに寄り添った作品を体験できる場を創出し、恵比寿地域の文化関連施設と連携して広がりある豊かな芸術文化が享受できる場を提供します。

## 構成




**・コミッション・プロジェクト__3F展示室（P9）**

国際的な発信および新しい文化価値の醸成を目的に、恵比寿映像祭2023から始まった制作委嘱事業が「コミッション・プロジェクト」。恵比寿映像祭2025では、昨年度決定した4名のファイナリスト**小田香、小森はるか、永田康祐、牧原依里**による新作を発表。

**・展示__2F・B1F展示室・1F（P10・11）**

ドキュメンタリーの視点から写真や映像を主としたさまざまな表現を展示し、「ドキュメント／ドキュメンタリー」を、言葉とイメージの関係性を通して再考します。**トニー・コークス**や**劉玕**による日本初公開作品、東京都コレクションから**ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット**や**藤幡正樹**、**杉本博司**など国内外の多様な作品を紹介。

**・上映__1Fホール（P12）**

コミッション・プロジェクトのファイナリストの過去作品など、総合テーマと呼応する特別上映プログラムを連日お届けします。

**・ライヴ・イヴェント__2F展示室・1Fホール（P13）**

東京都写真美術館1階ホールや各展示室を会場に、従来の映像の枠を超えたパフォーマンスを行います。

**・シンポジウム／スペシャルトークセッション__1Fホール（P13）**

総合テーマ「Docs ―これはイメージです―」や映像アーカイヴを掘り下げるシンポジウムやトーク・セッションを行い、多彩な登壇者を迎えて開催します。

**・教育普及プログラム（P14）**

ワークショップ、トークなど、恵比寿映像祭をより身近に、より深く楽しんでいただくため、さまざまなプログラムを用意します。

**・オフサイト展示_恵比寿ガーデンプレイス各所（P11）**

テキスト、音楽、映像の断片の再文脈化による独自の視覚表現で知られる**トニー・コークス**の作品をはじめとして、美術館から作品が飛び出し、恵比寿ガーデンプレイスの各所で展開します。

**・地域連携プログラム_地域連携各所（P15）**

恵比寿近隣の地域で活動するアートの担い手がそれぞれの施設で選りすぐりの展覧会のほか多彩なイヴェントを開催します。また同時に各施設をめぐるシールラリーを通じて、フェスティヴァルを楽しむきっかけをつくります。

**社会共生の取り組み（P15）**

**東京都写真美術館はどなたにも恵比寿映像祭2025を楽しんでいただけるよう、手話通訳付きトークや鑑賞サポートをより充実させ、アクセシビリティの向上に取り組んでいます。アクセシビリティとは、「利用できること」。身体の機能や認知の特性にかかわらず、その人の行きたい、見たい、知りたい、使いたいなどのニーズが満たせることを目指しています。**

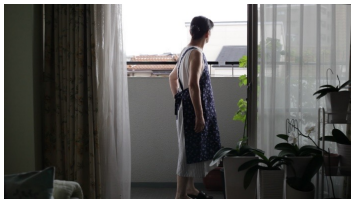
# 「恵比寿映像祭2025」の見どころ

## 1.「ドキュメント／ドキュメンタリー」をキーワードで掘り下げる

「フェイクニュース」という言葉が日常的に使われるようになった現代では、ドキュメント／ドキュメンタリー（事実）とフィクション（虚構）の境界線は曖昧になり、真実に辿り着くことは容易なことではありません。そのことは、同時にどれだけ現代が、イメージや言葉の情報で溢れているかの証左でもあると言えるでしょう。恵比寿映像祭2025では、「イメージ」「言葉」「身体」「時間」「パフォーマンス」などのキーワードから、さまざまな時代のアーティストたちの創作を読み解くことで、「ドキュメント／ドキュメンタリー」を拡張し、掘り下げていきます。

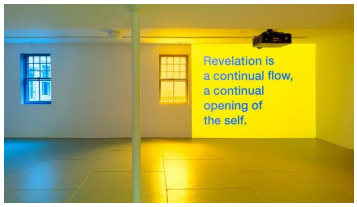
## 2. 総合テーマ「Docs —これはイメージです—」のはじまり

恵比寿映像祭2025の総合テーマ「Docs—これはイメージです—」は、恵比寿映像祭2024で決定した第2回コミッション・プロジェクトの4名のファイナリスト、**小田香、小森はるか、永田康祐、牧原依里**が準備している新作に共通する、さまざまな「ドキュメント／ドキュメンタリー」の要素から着想を得たものです。これらのアーティストは、それぞれの作品を通じて個人的な体験から社会的な課題、歴史と現在の交錯、身体や空間の在り方まで、多彩なテーマを掘り下げています。この共通点から生まれた視座が、恵比寿映像祭2025の方向性を形づくり、他の展示や上映プログラムの構成にも深く影響を与えています。


小田香 新作《母との記録「働く手」》 2025年

## 3. 広がる「Docs」、美術館の外へ「オフサイト展示」

明るい色の画像の背景に、テキストと音楽を結びつける、独自の視覚表現によって文化や歴史を再文脈化するメディア・アーティスト、**トニー・コークス**（アメリカ）は、東京都写真美術館館内各所での展示や上映のほか、JR恵比寿駅から恵比寿ガーデンプレイスまでを繋ぐスカイウォーク（動く歩道）など、恵比寿ガーデンプレイス各所の異なるサイトでも作品を展開します。2024年にマッカーサー財団「天才賞（Genius Grant）」を受賞し、さらに期待の高まるトニー・コークスの大規模な日本初展示をお楽しみに。



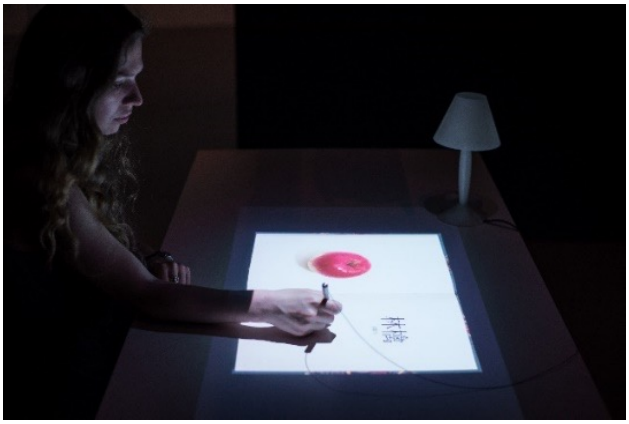
トニー・コークス インスタレーション風景、2023-2024年（Dia Bridgehampton、ニューヨーク）Courtesy the artist, Dia Art Foundation, New York, and Greene Naftali, New York. Photo: Bill Jacobson Studio, New York［参考図版］

## 4. みんなが楽しめる恵比寿映像祭へ

恵比寿映像祭2025では、乳幼児から高齢者、障害の有無や国籍を問わず、誰もが楽しめるフェスティバルを目指し、手話通訳つきインクルーシブワークショップやアニメーション・オープンワークショップなどの教育普及プログラムを用意しています。また、第14回恵比寿映像祭で登場した映写機から生まれた不思議なキャラクター「ye(b)izoちゃん」が再登場！アニメーション作家・漫画家のひらのりょう氏によるイラストがフェスティヴァルを彩ります。「ye(b)izoちゃん」を導き役に、会場で配布する公式タブロイドを通じてより一層フェスティヴァルを楽しんでください。

## 恵比寿映像祭2025の参加アーティストについて

「総合開館30周年記念 恵比寿映像祭2025」は、総合テーマ「Docs ―これはイメージです―」のもと、独自の視覚表現によって文化や歴史を再文脈化するメディア・アーティストの**トニー・コークス**（アメリカ）による日本初公開作品群が美術館内各所やオフサイト会場で展示されるほか、アジアからは、**劉玗**（リウ・ユー）（台湾）によるヴィデオと空間インスタレーション作品、昨年ヴェネツィア・ビエンナーレで発表された**カウィータ・ヴァタナジャンクール**（タイ）による映像作品、アーカイヴおよびフィールド・リサーチを通じて支配的なナラティヴに挑戦する**プリヤギータ・ディア**（シンガポール)によるメディア作品、映画監督**アピチャッポン・ウィーラセタクン**の映像の時間に関する写真作品が出展されます。造形的思考を写真や映像に接続させ有機的な映像空間をつくりだす**角田俊也**、自身で撮影した膨大な量の写真から映像を切り抜きつくりだす**林勇気**、 2021年に他界し、セクシュアリ ティ表現と闘い続けたパフォーマンス・アーティスト、**イトー・ターリ**のアーカイヴ展示からテーマを掘り下げ考察します。
東京都コレクションからは、**ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット**、**ジュリア・マーガレット・キャメロン**、**杉本博司**などの写真作品、修復を施した**古川タク**、**藤幡正樹**のメディア作品展示など、国境や時代を超える魅力あるラインナップが展示されます。



藤幡正樹《Beyond　Pages》1995年　東京都写真美術館蔵　"Masaki　Fujihata:　Augmenting　the World," LAZNIA Centre for Contemporary Art exhibition, Gdańsk 2017, Photo: Paweł Jóźwiak

トニー・コークス《The Queen is Dead ... Fragment 2》インスタレーション風景（ローマ現代美術館[MACRO]）2021年 作家蔵　Courtesy the artist, Greene Naftali, New York, Hannah Hoffman, Los Angeles, and Electronic Arts Intermix, New York. Photo: Simon d'Exéa. ［参考図版］

本映像祭では、「ドキュメント／ドキュメンタリー」再考の視点から写真や映像を主としたさまざまな表現から、言葉とイメージの関係性を再考します。総合テーマに即したコレクション作品によって奥行きのある展示を実現します。
そして、3月23日まで継続して展示を行う3階展示室では、第2回「コミッション・プロジェクト」で選出された4名のファイナリストによって恵比寿映像祭2025のために制作された作品群を展示します。**小田香**は、イメージと音を介して「人間の記憶のありか」について探求する作品を展開し、**小森はるか**は、独自の方法で記憶を伝承するドキュメンタリーの在り方を考える作品を出品します。**永田康祐**は、食や植民地の歴史のリサーチに基づいて、さまざまな語りが交錯する複合的な作品を出品し、ろう者である**牧原依里**は、身体感覚の視点から作品制作に取り組み、映像の実験的な手法を提示します。ファイナリストそれぞれの個人的、社会的、歴史的な背景や問題意識を通して「ドキュメント／ドキュメンタリー」を探ります。

## 主な参加アーティスト一覧

※★は今回のプレスリリースで追加したアーティスト　※姓のアルファベット順記載

| | アーティスト名 | | 活動拠点 | 新作 ●<br>日本初出展 ○<br>東京都コレクション ■ | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|
| | 日 | 英 | | | |
| 〔展示〕 | | | | | |
| 1 | ジュリア・マーガレット・キャメロン | Julia Margaret CAMERON | イングランド | ■ | P11 |
| 2 | トニー・コークス | Tony COKES | アメリカ | ○ | P10 |
| 3 | プリヤギータ・ディア | Priyageetha DIA | シンガポール | ○ | P10 |
| 4 | 栄昇 ★ | EISHO | 日本 | ■ | P11 |
| 5 | 藤幡正樹 | FUJIHATA Masaki | 日本 | ■ | P11 |
| 6 | 古川タク | FURUKAWA Taku | 日本 | ■ | P10 |
| 7 | 林勇気 ★ | HAYASHI Yuki | 日本 | ● | P10 |
| 8 | イトー・ターリ | ITO Tari | 日本 | | P10 |
| 9 | 劉玗 | LIU Yu | 台湾 | | P11 |
| 10 | 斎藤英理 | SAITO Eri | 日本 | | P11 |
| 11 | 杉本博司 | SUGIMOTO Hiroshi | 日本 | ■ | P11 |
| 12 | ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット | William Henry Fox TALBOT | イングランド | ■ | P11 |
| 13 | 角田俊也 | TSUNODA Toshiya | 日本 | ● | P10 |
| 14 | カウィータ・ヴァタナジャンクール | Kawita VATANAJYANKUR | タイ | | P10 |
| 15 | アンディ・ウォーホル ★ | Andy WARHOL | アメリカ | ■ | P10 |
| 16 | アピチャッポン・ウィーラセタクン ★ | Apichatpong WEERASETHAKUL | タイ | | P10 |

| | アーティスト名 | | 活動拠点 | 新作 ●<br>日本初出展 ○<br>東京都コレクション ■ | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|
| | 日 | 英 | | | |
| 〔上映〕 | | | | | |
| 1 | サイモン・ボール ★ | Simon BALL | イギリス | | P12 |
| 2 | ツァイベイ·ツァイ ★ | Caibei CAI | 中国 | | P12 |
| 3 | 平野克己 ★ | HIRANO Katsumi | 日本 | | P12 |
| 4 | 城之内元晴 ★ | JŌNOUCHI Motoharu | 日本 | | P12 |
| 5 | ジーナ・カメンツキー ★ | Gina KAMENTSKY | アメリカ | | P12 |
| 6 | 康浩郎 ★ | KOH Hiroh | 日本 | | P12 |
| 7 | 牧野貴 ★ | MAKINO Takashi | 日本 | | P12 |
| 8 | エレオノール・マムディアン ★ | Eléonore MAHMOUDIAN | 日本・フランス | | P12 |
| 9 | 松井宏 ★ | MATSUI Hiroshi | 日本 | | P12 |
| 10 | ダイアナ・キャム・バン・グエン ★ | Diana Cam Van NGUYEN | チェコ | | P12 |
| 11 | 折笠良 ★ | ORIKASA Ryo | 日本 | | P12 |
| 12 | 大島慶太郎 ★ | OSHIMA Keitaro | 日本 | | P12 |
| 13 | マティアス・ピニェイロ ★ | Matías PIÑEIRO | アルゼンチン | | P12 |
| 14 | オーラ・サッツ ★ | Aura SATZ | ロンドン | | P12 |
| 15 | 瀬田なつき ★ | SETA Natsuki | 日本 | | P12 |
| 16 | ステファン・ヴィユマン ★ | Stephen VUILLEMIN | フランス | | P12 |
| 17 | 渡邊琢磨 ★ | WATANABE Takuma | 日本 | | P13 |

| | アーティスト名 | | 活動拠点 | 新作 ●<br>日本初出展 ○<br>東京都コレクション ■ | 掲載ページ |
|---|---|---|---|---|---|
| | 日 | 英 | | | |
| 〔上映〕 | | | | | |
| 18 | 山村浩二 ★ | YAMAMURA Koji | 日本 | | P12 |
| 19 | スノー・ニン・イ・ライン ★ | Snow Hnin Ei Hlaing | ミャンマー | | P12 |
| 〔第2回コミッション・プロジェクト〕 | | | | | |
| 1 | 小森はるか | KOMORI Haruka | 日本 | ● | P9 |
| 2 | 牧原依里 | MAKIHARA Eri | 日本 | ● | P9 |
| 3 | 永田康祐 | NAGATA Kosuke | 日本 | ● | P9 |
| 4 | 小田香 | ODA Kaori | 日本 | ● | P9 |

## プログラムおよび参加アーティスト

### ■ 展示（3・2・B1F展示室、1F、オフサイト）

総合テーマ「Docs ―これはイメージです―」を掲げ、写真や映像を中心に、イメージと言葉の関係性を掘り下げながら、「ドキュメント／ドキュメンタリー」の再考を試みます。国内外のアーティストによる、言葉とイメージが交差する多様な表現を展示し、異なる視点やテーマの中から共有できる問題意識や新たな視野を見つける契機を提供します。

**3F展示室（第2回コミッション・プロジェクト ファイナリスト４名による新作展示）**

国際的な発信および新しい文化価値の醸成を目的に、恵比寿映像祭2023から始まった制作委嘱事業「コミッション・プロジェクト」。今回は、第2回コミッション・プロジェクトの4名のファイナリストによる新作を発表します。

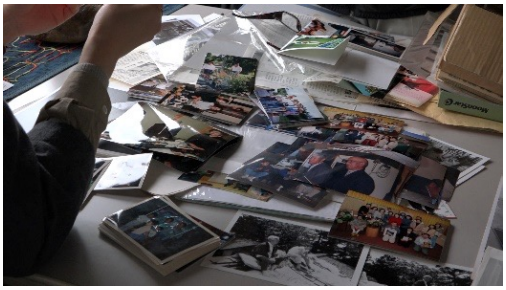
☐ **小田香 ODA Kaori**

☐ **小森はるか KOMORI Haruka**

☐ **永田康祐 NAGATA Kosuke**

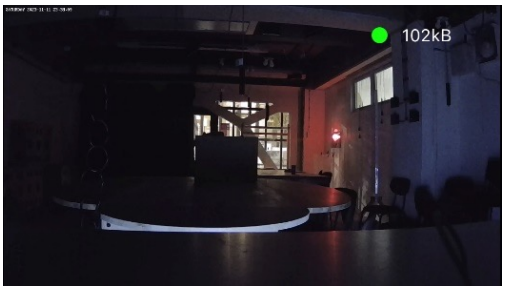
☐ **牧原依里 MAKIHARA Eri**

小田香 新作《母との記録「働く手」》 2025年［参考図版］



小森はるか 新作《春、阿賀の岸辺にて》 2025年

永田康祐 新作《Fire in Water》制作中のスチル 2025年




牧原依里 新作《3つの時間》 2025年

●**小田香**：自身の母を題材に、彼女の過去と現在の日常を映し出す小さな映画。身近な存在である母の知られざる人生を通じて、個人の物語が広がる普遍的な世界を見つめる作品。

●**小森はるか**：新潟水俣病患者運動を50年以上支え続ける旗野秀人さんを中心に描くドキュメンタリー。水俣病の被害者と共に歩み地域に根差した弔いと文化運動を続ける旗野さんの姿を通して、差別や苦難の中で生きる意味を問い、未来への希望を紡ぐ物語。

●**永田康祐**：朝鮮半島における日本統治時代の稲作と酒造への影響を考察する映像インスタレーション。映像、音、資料、食体験を通じて鑑賞者に多感覚的な体験を提供します。

●**牧原依里**：手話を拠点とするワーキングプレイス「5005」を舞台に、映像表現の可能性を探る実験的プロジェクト。一回性と反復性を交錯させた映像が、観客との間で新たな化学反応を生み出し、視覚や身体感覚を通じて真実の捉え方を問い直します。

**2F展示室・2Fロビー（★は第2弾発表アーティスト、※は東京都コレクションに含まれる作品のアーティスト）**

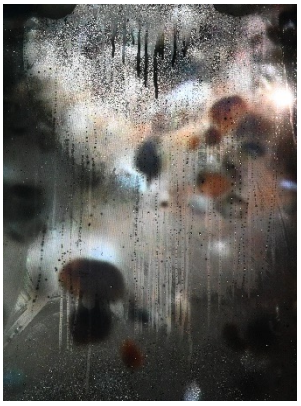
☐ アピチャッポン・ウィーラセタクン Apichatpong WEERASETHAKUL　★
☐ 林勇気 HAYASHI Yuki ★
☐ アンディ・ウォーホル Andy WARHOL ★ ※
☐ カウィータ・ヴァタナジャンクール Kawita VATANAJYANKUR
☐ プリヤギータ・ディア Priyageetha DIA
☐ イトー・ターリ ITO Tari
☐ 角田俊也 TSUNODA Toshiya
☐ 古川タク FURUKAWA Taku
☐ トニー・コークス Tony COKES

**— 身体、時間、パフォーマンス**

身体を使ったパフォーマンスや時間を掘り下げる行為は、記録とは相反する行為であるからこそ、現実や今を浮き彫りにします。女性の労働や消費社会の問題を、自らの身体を使ったパフォーマンスで表現するタイ出身の**カウィータ・ヴァタナジャンクール**や、東南アジアの労働の歴史を独自の映像表現で語り直す**プリヤギータ・ディア**、レズビアンとして、社会運動やフェミニズム、性的マイノリティの権利獲得に挑戦した**イトー・ターリ**のアーカイヴなど、パフォーマンスと身体を通した、批評的なまなざしを紹介します。他方で、映像は、動く絵（ムービングピクチャー）と呼ばれるように、1秒間に静止画を連続して見せることで、あたかも動いているように見える現象を導く、イメージのパフォーマンスでもあります。アニメーションの原理を遡る、**古川タク**による驚き盤の再現展示や、造形的思考を写真や映像に接続させ有機的な映像空間をつくりだす**角田俊也**、自身で撮影した膨大な量の写真を切り抜き映像をつくりだす**林勇気**に加え、映画監督**アピチャッポン・ウィーラセタクン**の写真作品《Box of Time》は、映像本来の時間に接続していきます。

イトー・ターリ《ひとつの応答―ペ・ポンギさんと数えきれない女たち》（2012年12月「アジアをつなぐ―境界を生きる女たち1984-2012」展 沖縄県立博物館・美術館）パフォーマンス使用画像より［参考図版］ 写真提供：ターリの会

カウィータ・ヴァタナジャンクール《The Toilet》2020年 Courtesy of the artist and Nova Contemporary


角田俊也《スクリーニング vol.1》2024年「写真鉱山 / スクリーニング vol.1」（スプラウト・キュレーション企画）より

**B1展示室 （★は第2弾発表アーティスト、 ※は東京都コレクションに含まれる作品のアーティスト）**

☐ **劉玗（リウ・ユー）LIU Yu**

☐ **藤幡正樹 FUJIHATA Masaki ※**

☐ **古川タク FURUKAWA Taku ※**

☐ **斎藤英理 SAITO Eri**

☐ **杉本博司 SUGIMOTO Hiroshi ※**

☐ **ジュリア・マーガレット・キャメロン Julia Margaret CAMERON ※**

☐ **ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット William Henry Fox TALBOT ※**

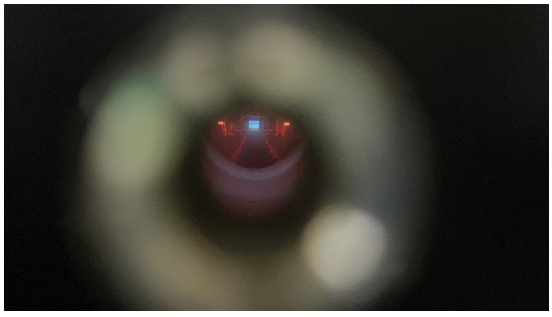
☐ **栄昇 EISHO ★ ※**

**—イメージ、言葉、神話**

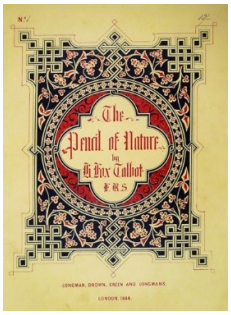
パイプの絵が描かれ、その下に「これはパイプではない」という文字が記載されたルネ・マグリットによる絵画には、《イメージの裏切り》というタイトルが付けられています。パイプのイメージが描かれているだけで、そこにパイプが存在している訳ではないというイメージの謎を問うたこの絵画は、イメージと言葉の問題を考える上で、現在もなお視覚表現にとって大きな影響を持ち続けています。地下1階展示室では、このマグリットの絵画のように、イメージは現実そのものではないという問いから、 イメージ、言葉、神話をキーワードに、「ドキュメント／ドキュメンタリー」の意味を考えていきます。世界の数々の神話に登場する大洪水のイメージの伝承を探る台湾出身の**劉玗（リウ・ユー）**の作品のほか、マイグレーション*修復を行い再展示する**古川タク**の映像装置や**藤幡正樹**のメディアアート作品から、19世紀の**ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット**まで、東京都コレクションの時代を超えた作品群をご紹介します。

*マイグレーションとは、システムやデータなどを新しい環境へ移行することを意味します。

劉玗（リウ・ユー）《If Narratives Become the Great Flood》2020年
Commissioned and supported by the Hong Foundation



古川タク《ニッケル・オデオン・動画劇場》1988年　東京都写真美術館蔵




ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット《自然の鉛筆》1844-46年頃
東京都写真美術館蔵

**オフサイト展示（恵比寿ガーデンプレイス各所）**

美術館から作品が飛び出し、恵比寿ガーデンプレイスの各所で展開します。

☐ **トニー・コークス Tony COKES**

トニー・コークス《The Queen is Dead ... Fragment 2》インスタレーション風景（ローマ現代美術館[MACRO] )2021年 作家蔵 Courtesy the artist, Greene Naftali, New York, Hannah Hoffman, Los Angeles, and Electronic Arts Intermix, New York. Photo: Simon d'Exéa.[参考図版]

## ■ 上映（1Fホール）

東京都写真美術館1階ホールを会場に、恵比寿映像祭のために特別に編まれた上映プログラムを連日お届けします。新旧のさまざまなドキュメンタリー作品を通じて、テーマをひも解いていきます。

### ―「ドキュメンタリー」と実験

日本記録映画作家協会や映像芸術の会を中心としてドキュメンタリーの議論が活発化した1960年代前後の日本では、若い世代の作り手たちが、テレビの普及に触発されながら、多様なスタイルでドキュメンタリー映画に新たな挑戦を試みました。恵比寿映像祭2025の上映プログラムでは、「日本のポスト・ドキュメンタリー」と題して1960年代前後から1970年代にかけて生みだされた多彩なドキュメンタリー作品を紹介するとともに、現代の実験性に特化したドキュメンタリー作品を多数紹介。さらに、コミッション・プロジェクトのファイナリストたちによる上映も含め、総合テーマと呼応する特別上映プログラムを連日お届けします。

- ☐ **日本のポスト・ドキュメンタリー①：テレビ／映像の可能性**
- ☐ **日本のポスト・ドキュメンタリー②：今、「遠くへ行きたい」（ゲスト・プログラマー 松房子）**
- ☐ **日本のポスト・ドキュメンタリー③：日大映研特集＊[1]**
- ☐ **日本のポスト・ドキュメンタリー④：日大映研の継承 ：A―平野克己、城之内元晴特集／B―康浩郎特集（ゲスト・プログラマー 平沢剛、ヘイデン・ゲスト）**
- ☐ **マティアス・ピニェイロ《You Burn Me》**
- ☐ **オーラ・サッツ《Preemptive Listening》**
- ☐ **スノー・ニン・イ・ライン《助産師たち》**
- ☐ **新千歳空港国際アニメーション映画祭セレクション＊[2]：意識、或いは無意識のドキュメント（ゲスト・プログラマー 小野朋子）**
- ☐ **松井宏、エレオノール・マムディアン《冬の庭》＋瀬田なつき《3つの5windows》**
- ☐ **牧野貴《100年》＋《The Intimate Stars》**

＊1：マイグレーション修復を行った東京都コレクション作品
＊2：上映作品の作家一覧（ダイアナ・キャム・バン・グエン、ジーナ・カメンツキー、サイモン・ボール、ステファン・ヴィユマン、ツァイベイ·ツァイ、山村浩二、大島慶太郎、折笠良）

## ■ 特別上映（1Fホール）

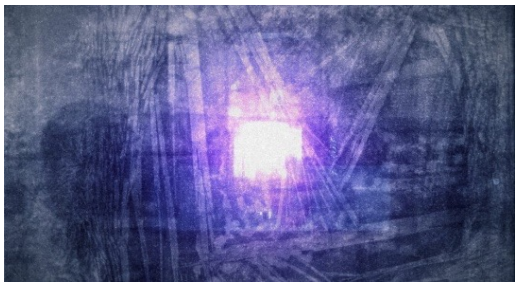
- ☐ **トニー・コークス《The Queen is Dead ... Fragment 1》+《Free Britney?》**
- ☐ **コミッション・プロジェクト 小田香《母との記憶「働く手」》**
- ☐ **コミッション・プロジェクト 小森はるか《春、阿賀の岸辺にて》**

「日本のポスト・ドキュメンタリー」日本大学芸術学部映画研究会《Nの記録》（1959年）
東京都写真美術館蔵

松井宏、エレオノール・マムディアン《冬の庭》2024年 ©Pigdom

## ■ ライヴ・イヴェント（2F展示室・1Fホール）

東京都写真美術館2階展示室・1階ホールを会場に、従来の映像の枠を超えたパフォーマンスを行います。いつもとは違う、美術館での新しい体験をお楽しみください。


牧野貴《100年》2025年 ©Takashi Makino

**□ 角田俊也によるライヴ・イヴェント**
会場：東京都写真美術館2F展示室
日時：2月11日（火・祝）、2月16日（日）（予定）料金：無料
**□ 牧野貴『100年』×渡邊琢磨 弦楽五重奏ライヴ**
会場：東京都写真美術館1Fホール
日時：2月11日（火・祝）（予定）料金：有料

## ■ シンポジウム／スペシャルトークセッション（1Fホール）

総合テーマ「Docs ―これはイメージです―」や映像アーカイヴを掘り下げるシンポジウムやトークセッションを、多彩な登壇者を迎えて開催します。また、プログラムに関連したスペシャルトークセッションを行い、フェスティヴァルの楽しみを広げます。

**【シンポジウム】**
1. 第2回コミッション・プロジェクト―Docsの現在
会場：東京都写真美術館 1F ホール（定員190名）
日時：2025年2月13日（木）17:30-19:30（予定）
料金：無料
パネリスト：小田香、永田康祐、小森はるか、牧原依里
モデレーター：堀内奈穂子（恵比寿映像祭2025コミッション・プロジェクト運営事務局／特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/ エイト]）、田坂博子（恵比寿映像祭2025キュレーター・東京都写真美術館主任学芸員）

2. [日仏会館共催企画]ヴァナキュラーとオリジナリティ（仮）
会場：日仏会館1F ホール（定員130名）
日時：2025年2月5日（水）18:00-20:00
料金：無料
パネリスト：橋本一径（早稲田大学大学院教授）ほか
モデレーター：川出良枝（日仏会館常務理事、東京大学教授）、田坂博子（恵比寿映像祭2025キュレーター・東京都写真美術館主任学芸員）

**【スペシャルトークセッション】**
※詳細が分かり次第、恵比寿映像祭公式ウェブサイトにてお知らせいたします。

## ■ 教育普及プログラム

「恵比寿映像祭2025」では、さまざまな世代の方がフェスティヴァルをより楽しみ、お気に入りの作品を見つけたり、フェスティヴァルについて考えたり、制作を通して映像や写真についての理解を深めたり、それぞれのペースで楽しんでいただけるよう、教育普及プログラムを多数用意しています。事前申込制のものだけではなく、当日展覧会鑑賞途中にふらっと立ち寄れるものなど、皆様のご都合に合わせてご参加いただけます。※すべて日本語での実施〔参加費無料〕

**● TOPボランティアによるアニメーション・オープンワークショップ**

当館特製のキットを使って、19世紀に発明されたアニメーション装置「おどろき盤」をつくります。世界に一つだけのオリジナルアニメーションがつくれます。

対象：どなたでも（小学生以下は大人の同伴が必要です）※事前申込不要

**● TOPボランティアによるワークショップ「色と形と言葉のゲーム」**

当館オリジナルの「色と形と言葉のゲーム」は、不思議な形のカラフル色のカードと、さまざまな言葉の書かれたカードを使って、感じたことや思ったことを話し合い、それぞれの感じ方や考えの違いをそのまま楽しむゲームです。正解や優劣がなく、大人から子供まで、だれもが一緒に楽しめます。

対象：ひらがなが読めるひとならどなたでも（小学生以下は大人の同伴が必要です）※事前申込不要

**● 手話通訳つきインクルーシブワークショップ「Docs：イメージ＋言葉＋筆談」**

聞こえない人、聞こえにくい人、聞こえる人が筆談しながら一緒に作品鑑賞を楽しむプログラムです。文字や絵でイメージと言葉を記録することで、新しいドキュメンタリーが見えてくるかもしれません。

案内人：小笠原新也氏（耳の聞こえない鑑賞案内人）

対象：小学1年生以上　※事前申込制（応募多数の場合は抽選）

**● アーティストについての図書室夜話（仮称）**

恵比寿映像祭2025の出品作家などが、自身の作家活動に影響を与えた図書や写真集、お気に入りの本などについて語ります。

対象：高校生以上　※事前申込制（応募多数の場合は抽選）

**● 恵比寿映像祭2025をじっくり見てみるガイド**

作家や作品に出会うきっかけとなるガイドです。あなたの今の気持ちをYes/Noでこたえていくと、あなたにピッタリなおすすめ作品にたどり着きます。ガイドに書かれた問いかけやメッセージに沿って作品を鑑賞すると、新たな発見があるでしょう。

**● 地域連携ワークショップ**

景丘の家と東京都写真美術館の探検プログラム

美術館からあるいて4分ほどの場所にある景丘の家。このワークショップでは、景丘の家やTOPの展示作品を鑑賞して、さまざまな謎を解きながらフェスティヴァル探検します。

対象：小学生　※事前申込制（応募多数の場合は抽選）

## ■ アクセシビリティ & サポート

乳幼児から高齢者まで、障害のある人もない人も、海外にルーツをもつ人も、誰もが楽しめる恵比寿映像祭を目指し、さまざまなサポートをご用意しています。

**● 映像祭をもっと楽しむ「やさしい見どころガイド」**

恵比寿映像祭2025のテーマや各フロアの見どころを簡単な日本語で紹介したガイドを配布します。

**● TOPボランティアによる鑑賞サポート**

TOPボランティアが館内の案内や展覧会を見るサポートをします。筆談、読み上げ、視覚・聴覚支援機器の貸出など。
※作品解説、介助は行いません。

日時：会期中2日間を予定　会場：東京都写真美術館 館内
対象：どなたでも(日本語での実施)　料金：無料（※事前申込不要）

**● 視覚・聴覚支援ツールの貸出**

一部のイベントや館内で、弱視（ロービジョン）の方向けのツール、眩しさを感じやすい方向けのツール、難聴の方向けのツール等の貸出を予定しています。※数に限りがあります。

**●解説を音声で聞ける「Uni-Voice（ユニボイス）」**

展示室内の主な解説を音声で読み上げる２次元コードを配布します。

**● 手話のできる受付スタッフ**

会期中毎日、1階総合受付に手話のできるスタッフがいます。
手話マークのバッジをつけています。

**● アクセシビリティ情報ページ「だれでもTOP」**

どなたにも安心してご来館いただけるよう、ウェブサイトでアクセシビリティ情報を紹介しています。恵比寿駅からのバリアフリールートのほか、多機能トイレ、授乳室、休憩スペースなどの館内設備や、ベビーカーや車いすの貸出、筆談や手話、点字による案内など。

## ■ 地域連携プログラム（地域連携各所）

地域連携プログラムでは、恵比寿近隣の地域で活躍するアートの担い手が総合テーマを共有して、それぞれの会場で選りすぐりの展覧会ほか多彩なイヴェントを開催します。加えて各施設をめぐるシールラリーも実施。シールを集めると記念品がもらえます。ぜひご参加ください。

1. 公益財団法人日仏会館/TMF日仏メディア交流協会
   HP｜http://www.fmfj.or.jp
2. YEBISU GARDEN CINEMA
   HP｜https://www.unitedcinemas.jp/ygc/
3. 工房親
   HP｜https://www.kobochika.com/
4. MuCuL
   HP｜ http://e-mucul.com
5. NADiff a/p/a/r/t
   HP｜http://www.nadiff.com/
6. MEM
   HP｜ http://www.mem-inc.jp
7. AL｜TRAUMARIS
   HP｜ https://al-tokyo.jp/
8. ART FRONT GALLERY
   HP｜https://www.artfrontgallery.com
9. POETIC SCAPE
   HP｜https://www.poetic-scape.com/
10. 景丘の家
   HP｜ https://kageoka.com
11. Koma gallery
   HP｜https://www.komagallery.com
12. POST
   HP｜http://post-books.info/
13. Emerging 恵比寿 2025
   HP｜https://www.artpowersjapan.org/emergingebisu2025

## 開催概要

**名称**　**総合開館30周年記念**
**恵比寿映像祭2025　Docs ―これはイメージです―**
**TOP 30th Anniversary**
**Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2025**
**Docs: Images and Records**

**会期**　**2025年1月31日（金）～2月16日（日）［15日間］ 月曜休館**
※コミッション・プロジェクト（3F展示室）のみ3月23日（日）まで

**会場**　**東京都写真美術館、恵比寿ガーデンプレイス各所、地域連携各所ほか**

**時間**　**10:00–20:00（1月31日～2月15日／最終日［2月16日］は18:00まで）**
※コミッション・プロジェクト（3F展示室）2月18日～3月23日は10:00-18:00
（木・金は20:00まで）

**主催**　**東京都／公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／**
**日本経済新聞社**

**共催**　**サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館**

**後援**　**J-WAVE 81.3FM**

**協賛**　**サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員**

**料金**　**入場無料**　※一部のプログラム（上映など）は有料

東京都写真美術館外観

※諸般の事情により、実施内容などを変更する場合がございます。
展覧会などの詳細、最新の情報は恵比寿映像祭公式サイトをご確認ください。

## チケット情報

恵比寿映像祭は、展示やシンポジウムなどは入場無料のフェスティヴァルですが、上映など一部の定員制のプログラムについては、有料チケットが必要です。

**有料プログラム**

● 上映（前売 800円／当日 1,000円）
● ライヴ・イヴェント［牧野貴『100年』×渡邊琢磨 弦楽五重奏ライヴ］（前売 1,800円／当日 2,000円）
※前売券の販売期間は2025年1月17日（金）10:00～（予定）各プログラムの前日23:59まで。
　ただし、予定枚数が終了した場合は販売期間内でもご購入いただけません。
※当日券は残席がある場合のみ、東京都写真美術館1階ホール受付で各日午前10時より販売いたします。

## 会場構成

**①東京都写真美術館**

展示（コミッション・プロジェクト含む）
上映、ライヴ・イヴェント、シンポジウム／スペシャルトークセッション、教育普及プログラム

**②恵比寿ガーデンプレイス各所**

オフサイト展示

**③恵比寿地域文化施設およびギャラリーなど**

地域連携プログラム

### ・恵比寿映像祭とは

恵比寿映像祭は、2009（平成21）年の第1回開催以来、年に一度恵比寿の地で、展示、上映、ライヴ・パフォーマンス、トーク・セッションなどを複合的に行ってきた、映像とアートの国際フェスティヴァルです。映像分野における創造活動の活性化と、映像表現やメディアの発展をいかに育み、継承していくかという課題について広く共有する場となることを目指してきました。近年では、地域とのつながりや国際的なネットワークを強化し、一層の充実と発展をはかっています。

### ・東京都写真美術館（TOP）総合開館30周年

東京都写真美術館は、2025年に総合開館30周年を迎えます。この30年の間に、写真や映像を取り巻く環境は大きな変貌を遂げています。恵比寿映像祭では、この変容する多様な映像表現を毎回異なるテーマにより、「映像とは何か」という問いを投げかけながら、国内外に芸術文化を広めてきました。恵比寿映像祭2025では、写真・映像メディアの変容に着目し、幅広い作品群をイメージと言葉からひも解くことで、あらためて「ドキュメント／ドキュメンタリー」の再考を試みます。歴史的な名作から現代の作品まで幅広く展示し、30年の歴史を振り返りながら、未来への新たな展望をアーティストとともに描きます。

**〔プレスお問い合わせ〕**

恵比寿映像祭に関する取材、掲載、広報用画像等については、以下までお問い合わせください。
※報道・媒体関係者様のお問い合わせに限らせていただきます。

恵比寿映像祭2025事務局 広報担当（青柳、市川、斉藤）
TEL：03-6161-3144（平日10:00～18:00）
メール： press@yebizo2025.com

**〔恵比寿映像祭2025に関するお問い合わせ〕**

恵比寿映像祭2025事務局
TEL：03-6161-3144（平日10:00～18:00）
メール：info@yebizo2025.com
恵比寿映像祭公式サイト：www.yebizo.com